

令和4年度の取組みについて

1 「尼崎21世紀の森構想」策定20年記念事業（新規）

令和4年3月に「尼崎21世紀の森構想（平成14年3月）」が策定され20年が経過する。

この機を捉え、森構想区域一帯で様々な県民が参加するイベントを開催し、尼崎の森の魅力を発信する。

広い層からの参加者が尼崎の森を満喫し、20年間の取り組みを振り返りその成果を実感してもらうことで、今後の森構想の推進に繋げる。

2 尼崎の森構想エリアツアー（継続）

令和3年度に引き続き施設等の協力を得てツアーの試行を行い、結果の検証を踏まえて継続的な実施に向けた取組を進める。

3 SDGsの取組（継続）

「尼崎21世紀の森づくりSDGs推進ガイドブック」制作、及びその普及を図り、以下の取組の推進に務める。

- SDGsに対する理解の促進を図る。
- 企業等のSDGsの取組を支援し、地域の魅力や価値高める。
- SDGsの目標達成に向けて、企業等との連携を図る。

4 「尼崎21世紀の森づくり」の今後の取組方策の検討（新規）

① 経緯・趣旨

- ▶ 「尼崎21世紀の森構想」が平成14年3月に策定され、更に同構想の理念を具体化するため、平成16年度に「尼崎21世紀の森づくり行動計画」、平成28年度に「尼崎21世紀の森づくり行動計画（改訂版）」が尼崎21世紀の森づくり協議会により策定された。
- ▶ これまでの間、行動計画に基づいた県・市の施策推進や県民、企業の参画による森づくり活動の取組により、国道43号以南の臨海地域（以下「森構想エリア」とする）の環境は大きく変化してきた。
- ▶ 令和4年3月には、「尼崎21世紀の森構想」策定から20年が経過する。同構想では段階的な整備方策として、概ね20年程度までを先導期・展開期、21～50年を概成期と位置づけている。
- ▶ また、「尼崎21世紀の森づくり行動計画（改訂版）」は、その当面の目標年度を令和3年度とされている。
- ▶ これらの機会を捉えて、今後の構想50年後を展望した施策推進や森づくり活動の取組方策を検討する。

② 「尼崎21世紀の森づくり」の今後の取組方策の検討

- ▶ 今後の概成期に於ける長期的な森づくりへの取組方針を検討する。
- ▶ 長期的に構想50年後を展望しながらの短期の取り組みとして、SDGs17のゴールに準じて2030年を当面の目途とした森づくり活動の具体的な取組方策を検討する。